

全国の実力医

ランキング 決定版

病院より 医者を選べ!

新シリーズ につぼんの医療

第一部 心臓外科「心筋梗塞・狭心症編」



表の見方
・表の数値は、勤務している病院以外で執刀した手術の治療成績も含め、03~04年のバイパス手術について自己申告のデータを基にまとめた。「-」は、「未記入」または「非公表」「未確認」を意味します。
・「院内死亡数」「手術後合併症」「オフポンプ率」「手術後平均在院日数」は、すべて、別の手術と合併しない単独で、事前に予定されたバイパス手術についてのデータです。
・「縦隔炎」とは、手術後に起こる重い感染症で、これを防ぐのも医師の実力とされています。
・「手術後平均在院日数」は、短い方が患者のリハビリや早期社会復帰に力を入れているとされています。

病院名と医師氏名	バイパス手術 症例数(2年間)	予定手術数 (例)	院内死亡数 (率)	手術後合併症		オフポンプ率 (%)	手術後平均在院 日数(日)
				脳障害 発生数(率)	縦隔炎 発生数(率)		
1 社会保険小倉記念病院(北九州市) 岡林均・副院長	550	496	2(0.4%)	6(1.2%)	3(0.6%)	99.6	17.5
2 榊原記念病院(東京都府中市) 高梨秀一郎・心臓血管外科部長※1	470	406	2(0.5%)	-	-	94.2	10
3 岸和田徳洲会病院(大阪府岸和田市) 東上震一・副院長	361	354	3(0.8%)	-	-	64.8	13~14
4 順天堂大学医学部附属順天堂医院(東京都文京区) 天野篤・心臓血管外科主任教授	339	267	0(0%)	0(0%)	2(0.7%)	100	11
5 金沢大学医学部附属病院(金沢市) 渡辺剛・心肺総合外科教授	332	310	1(0.3%)	2(0.6%)	0(0%)	100	14.7
6 名古屋第一赤十字病院(名古屋市) 伊藤敏明・心臓血管外科部長	319	267	1(0.4%)	2(0.7%)	3(1.1%)	41.9	17
7 心臓血管センター北海道大野病院(札幌市) 道井洋史・院長	318	316	0(0%)	0(0%)	0(0%)	92.4	23.5
8 近畿大学医学部奈良良病院(奈良県生駒市) 西脇登・心臓血管外科教授	279	270	4(1.5%)	2(0.7%)	2(0.7%)	2.2	18
9 大和成和病院(神奈川県大和市) 南淵明宏・心臓病センター長※2	271	172	4(2.3%)	-	-	89.5	16.2
10 国立循環器病センター(大阪府吹田市) 心臓血管外科A医師	235	187	1(0.5%)	5(2.7%)	0(0%)	81.3	-
11 名古屋徳洲会総合病院(愛知県春日井市) 大橋壮樹・総長(心臓血管外科部長)	215	178	2(1.1%)	1(0.6%)	2(1.1%)	99.4	10.4
12 長崎大学医学部附属病院(長崎市) 江石清行・心臓血管外科教授	209	135	1(0.7%)	2(1.5%)	1(0.7%)	31.9	17.5
13 群馬県立心臓血管センター(前橋市) 金子達夫・副院長	205	-	-	-	-	-	-
14 豊橋ハートセンター(愛知県豊橋市) 大川育秀・副院長	201	161	-	-	-	66.5	約12

※1 2004年9月より現職。「バイパス手術症例数(2年間)」には、前勤務病院を含めた03~04年の症例数を掲載したが、治療成績は現病院でのデータを中心にするため、04年1月から05年10月までのデータとした
※2 院内のデータベースの都合で03年11月~05年10月までの数値

外科医の腕とチーム力が生死を分かち心臓外科手術。しかし、患者が一番知りたい医師個人の本当の実力を示す指標は、なかなか公開されない。そこで、本誌は、外科医個人の治療成績を調べるアンケートを実施した。本邦初の注目データを、4回にわたってお届けする。

医療ジャーナリスト・福島安紀

心臓外科医には得意分野がある。医療関係者のあいだで語られるそんな言葉を、目に見える形で示したのは、04年12月に発覚した東京医科大学病院での心臓手術をめぐる医療事故だった。1人の医師がわずか1年3カ月の間に、弁膜症という心臓病の手術で4人も患者を立て続けに死亡させていたのである。

患者やその家族がこの事実を手術前に知っていれば防げたかもしれない医療事故。しかし、現段階で、心臓外科医の得意分野や治療成績を知り、比較する手段はない。たとえば、病院のホームページに医師のプロフィールが掲載されることはあっても、医師の実力、経験を推し量ることは難しいであろう。

一口に心臓外科手術と言っても、①バイパス手術②弁膜症手術③胸部大動脈瘤手術④小児心臓病(先天性心疾患)手術の4分野に分かれる。年間16万人が命を落としている心臓病の中でも、苦しんでいる患者が最も多いのが心筋梗塞・狭心症。その外科治療がバイパス手術だ。外科医ごとに同手術の症例数と治療成績をまとめたのがここに掲載した表である。

バイパス手術について、欧米では「症例数の多い医師ほど治療成績が良い」という研究報告がいくつもあつた。国立循環器病センターの北村惣一郎総長も、「少ない

くとも、症例数が多い病院や医師のほうが、少ないところより治療成績が悪いというデータは全くない」と話す。そこで、手術症例数の多い順に上位層のランキング化を試みた。

今回、外科医個人の治療成績を公開することについて、「心臓外科治療はチーム医療であり、医師個人の治療成績の公開には反対だ」といった慎重な意見もある。

一方で、斎藤滋・湘南鎌倉総合病院副院長(循環器内科医)のように、「外科手術に伴う合併症などは、外科医や内科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技師などのチームの力で防いでいる。とはいえ、外科医の腕の力も大きい」と、個人の力量を評価する声も聞かれた。

腕のいい外科医とは、患者の救命、ひいては治療成績向上を常に意識しており、そのためには、チーム全体の力を上げるための努力を惜しまない、ということなのだろう。治療実績につい